

参加費無料

令和元年台風 19 号調査報告会

～河川，気象，地盤，史学，災害医療の各分野から～

■日時：2020年1月8日（水） 14:00～17:00

■会場：名城大学天白キャンパス 共通講義棟南 S-103 （定員 300 名）

■プログラム

14:00-14:05 開会挨拶 名城大学 小原 章裕 学長

14:05-14:15 連携協定と自然災害リスク軽減研究センターの説明 小高 猛司 センター長

14:15-16:45 調査報告会

①名城大学自然災害リスク軽減研究センターからの報告（14:15-14:35）

溝口 敦子 教授（理工学部社会基盤デザイン工学科）：河川

②東北大学災害科学国際研究所からの報告（14:35-16:25：20分@5名，途中休憩10分含む）

橋本 雅和 助教（災害リスク研究部門環境変動リスク研究分野）：河川，気象

森口 周二 准教授（地域・都市再生研究部門計算安全工学研究分野）：地盤，斜面

佐々木 宏之 准教授（災害医学研究部門災害医療国際協力学分野）：災害医療

蝦名 裕一 准教授（人間・社会対応研究部門災害文化研究分野）：史学

川内 淳史 准教授（人間・社会対応研究部門歴史資料保存研究分野）：史学

③総合討議（16:25-16:55）

16:55-17:00 閉会挨拶

■事前申込とプログラムの詳細は NDRR WEB サイト (<http://ndrr.meijo-u.ac.jp/>) をご覧下さい

■問合せ：名城大学自然災害リスク軽減研究センター 小高猛司 (kodaka@meijo-u.ac.jp)

名城大学と東北大学は令和元年10月28日、両大学の特色と資源を活かして、教育、研究、学生交流、産学連携等で連携及び協力する包括協定を締結し、特に、防災・減災研究を軸とした連携研究活動からスタートすることとしました。今回の協定締結を受け、名城大学では、2012～2016年度に時限活動していました「自然災害リスク軽減研究センター (NDRR)」を再設立し、災害科学で世界をリードする東北大学災害科学国際研究所と連携研究活動を開始することにいたしました。

その連携のキックオフとして、この度、東北大学災害科学国際研究所より史学や災害医療の分野を含む新進気鋭の5名の研究者を迎えて、令和元年台風19号の被害調査の報告会を開催いたします。事例災害調査報告のみならず、歴史学や医学からの視点による報告もしますので、文系、理系を問わず、学生、一般の方も含む幅広い分野の方にお聞きいただきたいと思っております。

主催：名城大学自然災害リスク軽減研究センター

共催：東北大学災害科学国際研究所

後援：国土交通省中部地方整備局、土木学会中部支部、地盤工学会中部支部、日本建築学会東海支部、日本建設業連合会中部支部、建設コンサルタンツ協会中部支部、中部地質調査業協会



土木学会 継続教育 (CPD) プログラム：2.7 単位